

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0870101524		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホーム お母さんの家		
所在地	茨城県水戸市小吹町2297-17 (電話) 029-241-6610		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年1月16日	評価確定日	平成21年4月21日

【情報提供票より】 (平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤	23人, 非常勤 7人, 常勤換算 3.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての 1 ~ 3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	共益費 1,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	650 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年12月1日現在)

利用者人数	25 名	男性	2 名	女性	23 名
要介護1	3	要介護2	7		
要介護3	8	要介護4	6		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低	67 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	立川病院、小野クリニック、おおさわデンタルクリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの行事を職員が企画するとともに利用者のリクエストによる芸能を職員自ら本格的に演じ利用者に喜ばれている。
お天気の良い日の玄関先は全ユニットの利用者のコミュニケーションの場となり利用者の楽しみとなっている。
利用者は広々として機能的なホームで職員の思いやりに満ちたさりげない支援と気遣いのなか穏やかで安心した生活をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義や目的を理解し、結果を各ユニットごとに掲示するとともに運営推進会議の委員に送付している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者が作成しているので全職員で作成し、更なるサービスの質の向上に活かすことを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は家族や地域の代表、市職員、ホーム職員がそれぞれ2名ずつ参加し2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活状況を報告したり委員から地域の情報をもらいサービスの質の向上に活かしている。 欠席の委員には議事録を送付している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関に意見箱を設置し家族の意見や要望を汲みあげている。 重要事項説明書に第三者の苦情相談受付窓口を明記している。 事業所だよりで行事予定やホームの様子を報告しているが、職員の状況や異動等も記載することを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム行事に地域の人々の参加を呼びかけている。 高校生のボランティアを受け入れたり、ホーム主催の夏祭りが地域の人々との最大の交流の場となっている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の地域に密着した理念を全職員でつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念を確認するとともに、玄関や各ユニットで目の付きやすい場所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム行事に地域の人々の参加を呼びかけている。 高校生のボランティアを受け入れたり、ホーム主催の夏祭りが地域の人々との最大の交流の場となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を理解し、結果を各ユニットごとに掲示するとともに運営推進会議の委員に送付している。 自己評価は管理者が作成しており、全職員で作成する体制までには至っていない。	○	自己評価の意義や目的を再確認するとともに全職員で作成し、更なるサービスの質の向上に活かすことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族の代表や地域の代表、市職員、ホーム職員がそれぞれ2名ずつ参加し2ヶ月に1回開催するとともに、出た意見をサービスの質の向上に活かしている。 欠席の委員には議事録を送付している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員を受け入れている。 市福祉課から生活保護を受けている人の利用の依頼などはあるが、介護福祉課や在宅介護支援センターの職員が運営推進会議以外で来訪する機会は少ない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事予定やホームの様子を記載した事業所だよりを毎月発行し、金銭出納帳のコピーと一緒に家族に送付している。 利用者の身体状態に変化が生じた場合は状況等を電話や家族等の訪問時に報告している。	○	毎月発行している事業所だよりに職員の状況や異動等も掲載することを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し意見や要望を汲みあげている。 重要事項説明書に第三者の苦情相談受付窓口を明記している。 家族の訪問時や電話の時に意見等を聴いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員の異動はあるが、離職の際のダメージが少なくなるよう職員は3ユニットのどの利用者とも馴染みの関係を築くよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は市内で実施し、職員が数多くの研修を受講できるよう配慮している。 3ユニットから各1名参加し、研修資料を全職員が閲覧する体制になっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県地域密着型介護サービス協議会主催の会議や学習会に参加し、同業者との交流を積極的に行うとともにサービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居室が空いている場合は必要に応じて体験利用ができる体制になっている。 利用前にホームと同じ敷地内のデイサービスを利用し、ホームの職員や利用者と触れ合う機会を設けるなど馴染みながら利用ができるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から教えてもらうことが多く、利用者は人生の先輩という考えを共有し敬っている。 利用者と職員は喜怒哀楽を共有し、支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用前の面接や情報提供からこれまでの生活歴を把握するとともに、言葉や表情などから思いや意向を把握している。利用者からの把握が困難な場合は、家族等の意見を聞き職員で話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用前の面接や家族等の意向を重視し、職員の気づきによる意見も反映させて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回会議を開催し、職員が記録する利用者の状態変化や状況に応じて家族等の意見を反映し現状に即した介護計画に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用型共同生活介護サービスを提供する体制ができている。 希望すれば家族も宿泊できるなど柔軟な支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に利用者や家族から受診を希望する医療機関を確認している。 提携病院による24時間の受診体制を整え、利用者に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応は重要事項説明書に明記していないが、マニュアルを作成し関係者全員で方針を共有している。 現在は全家族に方針を通知するとともに利用契約時に利用者と家族に説明している。 老衰による看取りを2回経験している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねないように支援している。 個人情報は全職員が守秘義務を理解しており、外部調査においても利用者と家族の了解のもと情報を提供している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、利用者一人ひとりの意思を確認し柔軟に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や後片付けを利用者と職員が一緒に行っている。 食事は彩り良くバランスがとれている。 毎月の誕生会では寿司などの出前をとり、利用者の楽しみになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調不良の利用者以外は毎日入浴し、利用者の楽しみになっている。 入浴の順番は納得いくよう利用者同士が決めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や得意なことを活かせる場面づくりをしている。 高齢で野菜作りができなくなった利用者と車椅子で畑に行き、利用者の指示を受けながら野菜を作るなど思いやりのある支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺の自然環境を利用しお花見など年間行事を計画し実施している。 職員は日々の散歩を心がけ利用者の楽しみになっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	天気の良い午前中は利用者が玄関周辺に集まるため鍵をかけていないが、それ以外は防犯に配慮し鍵をかけている。 居室は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練、避難訓練をセキュリティ委託会社により年2回行い、利用者や職員は避難場所を把握している。 災害時に備え非常用持ち出しリュックを準備している。	○	夜間を想定した訓練を実施するとともに、防災訓練の際は近隣に知らせ地域の人々の協力が得られる体制づくりが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	設置法人の栄養士により栄養バランスの取れた献立を作成している。 食事や水分の摂取量を毎回記録し水分不足にならないよう支援している。 通常の食事ができない利用者には、医師の指示を受け栄養食品を補給するなど健康状態に合った食事になるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体を花や利用者の作品で飾り、季節感や和やかな雰囲気を出している。 共用空間はリビング兼食堂だが独立した畳の部屋があり、利用者は洗濯物畳みなどに利用している。 リビングや廊下に椅子を設置し利用者同士がくつろいだり、一人で過ごせる場所を確保している。 トイレ等も清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持込は自由で、家族の協力のもと使い慣れた馴染みの物を居室に置き、自宅と同じ様に居心地良く生活ができるよう支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。